

弘前大学
広報誌

ひろだい

vol.

3

2004.4

【特集】

大学改革は今。

法人化で弘前大学はどう変わるのか。

【シリーズ】花開く研究

白神山地の世界一の研究拠点・
情報センターを目指す

〈弘大「白神研究会」〉

【学内トピックス】話題の広場から

施設紹介 弘前大学地域共同研究センター
法人化記念式典／外国人教師館の移転 他

「医療の質重視度」ランキングで
弘前大学病院上位に

【学長に聞く】

全学的な意識変革と
民間的発想のマネジメント導入で、
地域から期待され頼りにされる弘大に



国立大学の法人化に伴い、弘前大学はこの4月、「国立大学法人弘前大学」によって設置された弘前大学として新しいスタートを切りました。法人化によって変わること、変わらないこと、そして「新弘前大学」の理念、目標など目指すべき姿について遠藤正彦学長にお話を聞きました。

求められる意識変革

— 法人化に至る経緯と目的についてお教えてください。

「日本の大学教育のあり方や運営については、ずいぶん前から多くの問題が指摘されてきました。ことに国立大学は税金によって運営されていますから、現状に対する社会の評価は厳しく、国におい

ても大学改革を進めるための論議が平成9年ごろから始まりました。そして平成14年11月には、『競争的環境の中で世界最高水準の大学を育成するため、“国立大学法人化”などの施策を通して大学の構造改革を進める』ということが閣議決定されました。今回の法人化はこれを受けたもので、国立大学を国際水準の教育研究機関とするために、『大胆な再編

統合、民間的発想のマネジメント、第三者による厳正な評価による大学の活性化・高度化』などを目標としています」

— 法人化によってどういうところが変わるのですか？

「まず設置形態と機構が変わります。大学へ交付される予算（運営費交付金という名称）の仕組みも変わります。これまでの国立大学は国の行政機関で、いうな

れば文部科学省の一部局のようなものでした。4月からは国立の機関から離れ、国立大学法人弘前大学という法人によって設置された弘前大学となるわけです。したがって行政機関に係る法律はほとんど適用されなくなり、文部科学省からの指導も原則的に無くなります。予算、組織等の規制は大幅に縮小し、大学の責任で決定していくことになります」

— 法人化にあたって、一番力を入れていきたい点は？

「私はまず、教員・職員の意識変革が大事だと思っています。一番変わってほしいのは、その点ですね。なぜ法人化しなくてはならなかったのか、あるいは大学が置かれている環境や日本の中での大学の有り様など、いろいろと問われている点について教員・職員自身が自ら考えて、意識を変えていただかないと、制度や設置形態が変わるだけで、あとは何も変わらないということになってしまう」

— どのような意識をもっていただきたいのですか？

「これからは大学間の厳しい競争の場に立たされるんだという危機意識ですね。北東北や北海道地域の人口過疎化と少子化、財政及び産業基盤の脆弱さ、中央にある大学との地域間格差、大学間格差を考慮すると前途は多難と言わざるをえません。2008年には全国の国公私立大学の入学定員数と18歳の人口がほぼ同じになるといわれています。つまり、多くの大学が定員割れに陥るわけです。国立大学法人は、職員や学生の数に見合った運営費交付金で運営するのですが、定員割れということひとつを考えても、どう生き残っていくかを真剣に考えなければなりません」

3つの柱を持つ「中期目標」

— 国立大学法人法によると、国立大学法人は中期目標に基づき、中期計画を作成し、文部科学大臣の認可を受けなければならないとあります。中期目標、中期計画について教えてください。

「本学では昨年9月末に中期目標・中期計画の素案を提出し、国立大学法人評価委員会における審議を経て、現在、最終の見直しをしているところです。その中では『教育』『研究』『地域貢献』という3つの柱を立てて、それぞれの目標を立てております（3P参照）。地方大学が自分たちの魅力をどうしてつくっていくかということを現実的な視点で考えると、やはり、社会が求める人材を育てて送り出すという『教育』、世界に発信す

る『研究』、そして地元で貢献できる『研究』、つまり地域貢献だと思えますね。3つめの『地域貢献』については、本学の場合、地域との関わり合いが極めて希薄だったと思っています。その理由は二つあると考えていて、まず大学自身が十分に働きかけなかったこと、そして地域の方も大学に対して関心が薄かったのではないのでしょうか。いずれにしろ、これからは、以上の3つのことにおいて、外に見える形できちっと結果を出していかなければいけないと思っています」

— 各大学の目標については、達成度のチェックもあると聞きましたが

「各大学がどのくらい目標を達成しているかが、6年ごとに国立大学法人評価委員会によって評価されます。その評価結果は、大学へ交付される運営費交付金に反映されます」

— 新しい組織の特徴について教えてください

「法人組織になることにより、学長と理事で役員会が発足します（4P参照）。



理事、監事という役職は今までに無く、役員会が大学の最高意思決定機関になります。理事は5人で役割は、『総務』『財務』『教育・学生』『研究・施設マネジメント』『社会連携』です。5人のうち1人以上は学外者を充てるのが規定されており、『社会連携』担当が学外者になります。『役員会』制の導入は、『民間的発想』のマネジメント手法を導入することです。これにより5人の理事の下に、それぞれ実務委員会と事務局を直結させて機動性の高いトップマネジメントを実現したいと考えています」

— 評価室、監査室、人事苦情処理室というのも設けられたそうですが

「これは、大学の中で自己評価を徹底させ、自浄作用、自己点検評価ということをきちっとおこなっていくということです。また今後、労働組合も作られてくるだろうと思います。ただし、国立大学

法人の運営費はほとんどが国民の税金です。ですから、かなり公共性があるわけです。ですから、そういう意味では、大学のさまざまなことに中立でなければならぬでしょうし、国民に対しても開かれていて、公平でなければいけないと思います」

社会に求められる人材に

— 4月からの「新弘前大学」に対して、地域の方々からはどのような期待の声が寄せられていますか？ また、どのようなことを期待してほしいですか？

「前半でのお話でも出たように、本学は『地域貢献』を大学の大きな設置目的、理念の一つにしています。担当理事も県から出向していただき、『経営協議会』のメンバーもすべて地元の方に参画していただきます。しかも全員辛口の方です。つまり、相当の覚悟と熱意を持って『地域貢献』に取り組みます。さらには、東京にも企業連携のための拠点を設置します。すでに『地域共同研究センター』『地域社会研究科』『生涯学習教育研究センター』や各サテライトを設置してきましたが、それらもさらに充実させていきたいと思っていますので、ぜひ期待していただきたいですね」

— 最後に「新弘前大学1期生」といえる、今年の新入生たちにメッセージを

「良い学生をとり、良い環境のもとで、専門性ばかりでなく教養や人格においても素晴らしい人材に育てていきたいというのが本学の教育目標です。課外活動室をはじめ運動場や体育館の整備なども進めてきました。国立大学はあまり熱心でなかったといわれている就職活動においても、『就職支援センター』を設けてバックアップしていきます。新入生のみなさんには、これだけのメニューをそろえましたよと言える状態です。ですから、みなさんにはそれにぜひ応えていただき、教養、専門性、体力、人格のどの面でも、さすがは弘前大学の学生だといわれるようになって卒業していただきたいと願っています」

— ありがとうございます。

弘前大学長 遠藤正彦

宮城県仙台市出身。1963年に弘前大学医学部卒業、68年東北大学大学院医学研究科修了。東北大学医学部助手・講師を経て、75年弘前大学医学部助教授、81年教授、96年から医学部長。専門は糖鎖工学で「エンドβ-グルコシダーゼ」など6種類の酵素を世界に先駆けて発見した。この1年は大学法人化への対応で超多忙の日々を過ごし、大好きな山歩きに行く時間もほとんど取れなかった。唯一の息抜きは自宅で育てているチューリップ、ヒヤシンスなどの花の世話。温度管理が難しく技術が必要といわれるが、外は雪の2月には見事な花を咲かせた。

➔ 「法人化」で何が変わるのか。

「国立大学は国民の期待に応えるだけの成果を上げているのか」そんな国立大学に対する社会の評価が厳しくなり、大学改革を求める声が数年前から大きくなりました。国立大学を国際水準の教育研究機関とするために「大胆な再編統合、民間的発想のマネジメント、第三者による厳正な評価による大学の活性化・高度化」などを目標とした、明治以来の国立大学の大改革「法人化」が平成16年4月にスタートを切りました。

● 「国立大学法人」制度の概要

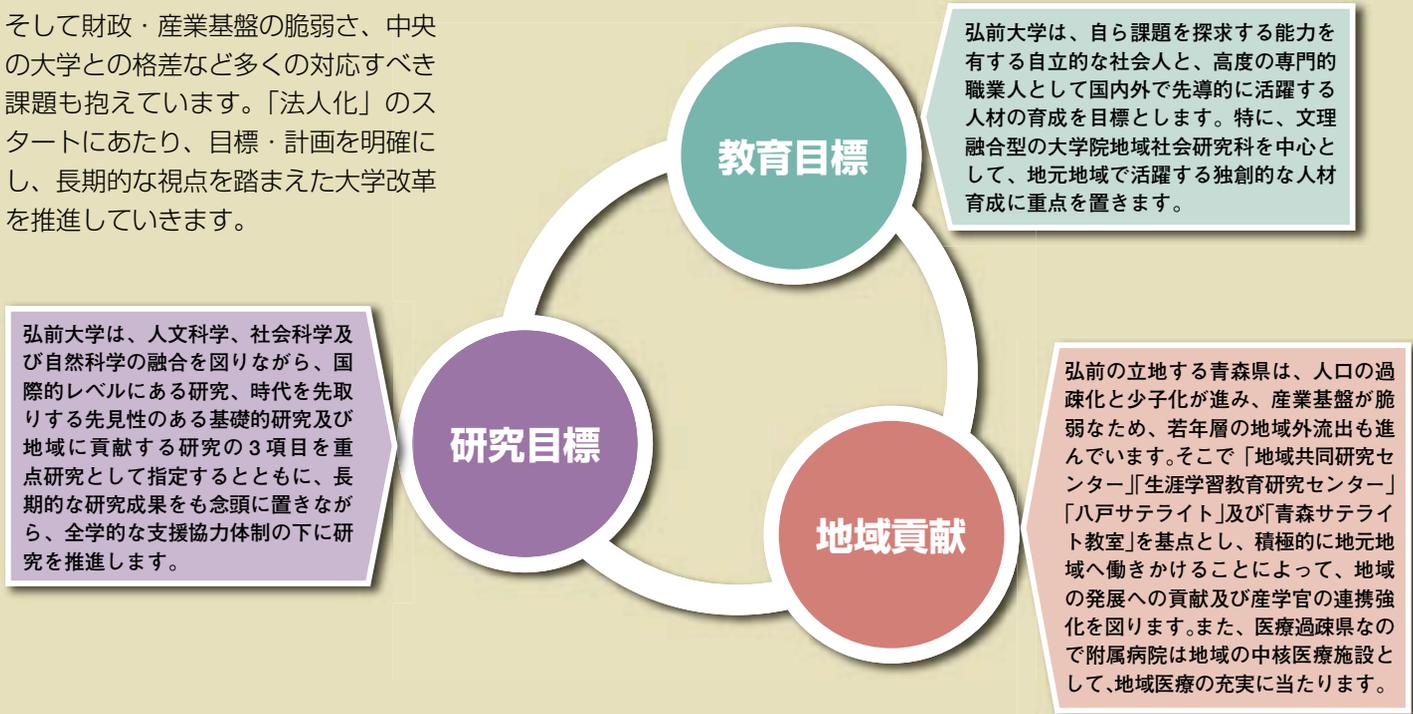
- 1 **「大学ごとに法人化」し、自律的な運営を確保**
 国の行政組織の一部から各大学ごとに独立した法人格を付与され、予算、組織等の規制は大幅に縮小し大学の責任で決定されます。
- 2 **「民間的発想」のマネジメント手法を導入**
 「役員会」制の導入によりトップマネジメントを実現します。また、「経営協議会」を置き、全学的観点から資源を最大限活用した経営をします。
- 3 **「学外者の参画」による運営システムを制度化**
 「学外役員制度」(学外有識者・専門家を役員に招聘)を導入します。また、経営に関する事項を審議する「経営協議会」、学長選考を行う「学長選考会議」にも学外者が参画します。
- 4 **「非公務員型」による弾力的な人事システムへの移行**
 能力・業績に応じた給与システムを各大学の責任で導入します。兼職等の規制を撤廃し、能力・成果を産学連携等を通じて社会に還元します。また、事務職を含め学長の任命権の下での全学的な人事を実現します。
- 5 **「第三者評価」の導入による事後チェック方式に移行**
 大学の教育研究実績を第三者機関により評価・チェックし、その結果を大学の資源配分に確実に反映します。評価結果、財務内容、教育研究等の情報を広く公表します。

➔ 「弘前大学」が目指すべきこと。

弘前大学は創立以来、教育研究水準の向上を図り、人類文化に貢献しうる教養識見を備えた人格者の育成に努めてきました。しかし、過疎化、少子化、そして財政・産業基盤の脆弱さ、中央の大学との格差など多くの対応すべき課題も抱えています。「法人化」のスタートにあたり、目標・計画を明確にし、長期的な視点を踏まえた大学改革を推進していきます。

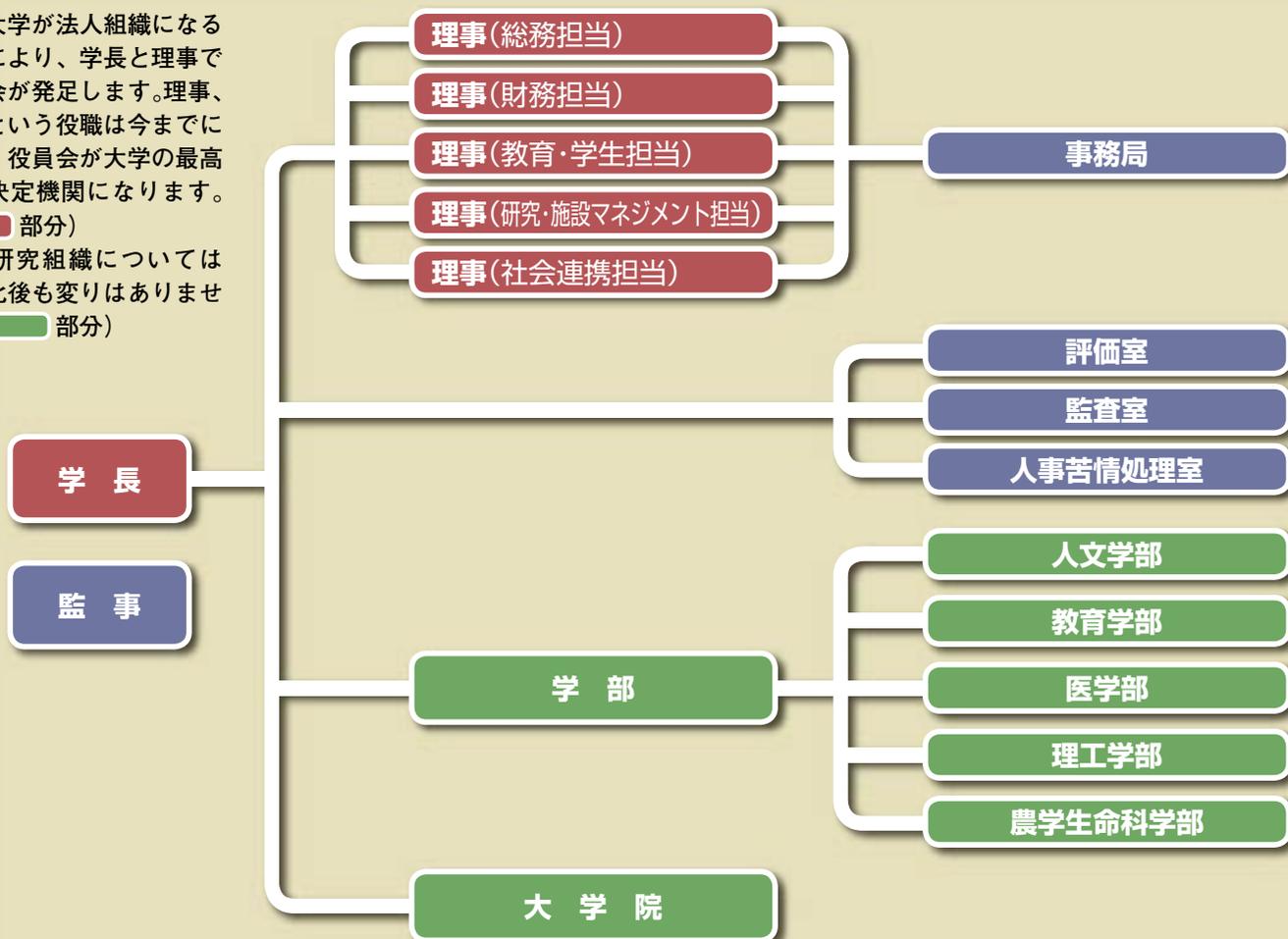
● 弘前大学の目標

弘前大学のモットーである「世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学」を継承し、その実現に向け、教育、研究及び地域貢献を展開します。



→ 弘前大学の新組織図

- 弘前大学が法人組織になることにより、学長と理事で役員会が発足します。理事、監事という役職は今までになく、役員会が大学の最高意思決定機関になります。(部分)
- 教育研究組織については法人化後も変わりはありません。(部分)



→ 理事紹介

■ 総務担当



昆 正博

1973年 東京理科大学大学院理学研究科修士課程修了
1973年 東京理科大学理学部助手
1978年 弘前大学教育学部助教授
1983年 弘前大学教育学部教授
1993年 弘前大学評議員
2002年 弘前大学副学長

専門分野／幾何学

■ 財務担当



三國 治

1965年 函館工業高専庶務課
1972年 文部省大臣官房人事課
1987年 北海道大学人事課長
1996年 信州大学庶務部長
1997年 山形大学庶務部長
1999年 筑波大学総務部長
2001年 長岡技術科大学事務局長
2003年 弘前大学事務局長

■ 教育・学生担当



大関 邦夫

1970年 北海道大学大学院理学研究科化学専攻博士課程修了
1970年 北海道大学理学部助手
1973年 北海道大学理学部講師
1975年 北海道大学理学部助教授
1985年 弘前大学理学部助教授
1992年 弘前大学理学部教授
1997年 弘前大学理工学部教授

専門分野／分析化学

■ 研究・施設マネジメント担当



中澤 勝三

1972年 京都大学農学部農林経済学科卒業
1977年 一橋大学大学院経済学研究科博士課程単位修得退学
1977年 一橋大学経済学部助手
1978年 弘前大学人文学部講師
1988年 弘前大学人文学部教授

専門分野／西洋経済史

■ 社会連携担当



久慈 一英

1965年 明治大学文学部卒業
1991年 青森県企画部調整課長
1992年 青森県総務部人事課長
1994年 青森県商工労働部参事
1998年 青森県企画部理事
2000年 青森県監査委員事務局長
2001年 財団法人21あおもり産業総合支援センター専務理事



日本経済新聞社が昨年11月上旬から12月上旬にかけて全国主要病院長を対象に行なったアンケート調査の結果が、日本経済新聞2003年12月22日全国版に特集として掲載されました。このなかで、弘前大学医学部附属病院は全国46位と高い評価を得ました。

調査は200床以上の全国1986病院を対象に、医療の質を高める取り組みとして、「複数の診療科の医師が参加する症例検討会が開催されているか」「質に関する院内の評価が行なわれているか」「休日夜間の救急医療体制」などについてアンケート調査が行なわれました。630病院から有効回答がえられ（回答率31.7%）、大学附属病院では54病院が回答を寄せたとのこと。各選択肢に対して配点され、250点満点で評価が行なわれました。第一位は静岡県の聖隷浜松病院で185点でした。弘前大学附属病院は250点満点中149点で全国46位の高ランクでした。国立大学病院の中では富山医科大学、東北大学、長崎大学に次いで本学附属病院は第4位であり、本学附属病

院の医療の質の改善および救急医療への取り組みが評価された結果と思われます。

本年4月からの国立大学の独立行政法人化および卒後臨床研修の必修化を迎え、国立大学附属病院は大きな変革を迫られています。これからは、大学病院といえども、地域に根ざして、患者さんから満足してもらえる質のよい医療を提供してゆかないと生き残れない時代に入ったといえます。弘前大学医学部では改革を進めて国立大学法人化に備えた対策をとってきましたが、まだまだ不十分な点も少なくありません。医学部医学科・同附属病院では、本年度に救急災害医療講座、総合診療部の新設を行い、診療科横断的な医療供給体制を整備し、重症の救急疾患に対応する体制も出来上がりつつあります。今回の高い評価は私たちの取り組みが認められた結果であり、大いに励みになるとともに、さらに質の良い医療を提供する努力を怠ってはならないことも示しています。これからも皆様方からのご支援と御批判をいただき、質の高い病院を目指してゆきたいと考えております。

アンケート質問項目

1. 医師の配置基準を満たしているか
2. 看護師をどの程度配置しているか
3. 臨床研修医が研修する病院に指定されているか
4. 臨床研修医の応募倍率は
5. クリニカルパスを導入しているか
6. 医療の質を高めるための工夫は
7. チーム医療のためにどんな取り組みをしているか
8. 患者を診療所からどの程度紹介されているか
9. 第三者機関による認定を受けているか
10. 医療事故調査委員会や倫理委員会に第三者が入っているか
11. 2002年の救急車受け入れ件数は
12. 救急車受入数は増えているか
13. 24時間対応の救急医療の体制は
14. 全手術に占める全身麻酔の割合と、そのうち麻酔科医が担当した割合は
15. 48時間以内の再手術・再入院の件数と、その原因を検証しているかどうか
16. 臨床試験（治験）の件数や規模は
17. 厚生労働省が定めた基準症例数をクリアした手術は何種類あるか

「医療の質重視度」病院ランキングで弘前大学病院上位に

弘前大学
施設紹介

弘大と産業界のコラボレーションを推進する 弘前大学地域共同研究センター（CJR）

地域に密着したシンクタンク

弘前大学地域共同研究センター（CJR）は、弘前大学がもつ人文科学・教育学・医学・理工学・農学等の各学術分野において、長年の研究により得られた独自の研究成果を基に、特許等の学術資産（知的財産）の提供や最先端の研究情報の提供を地域産業界等に行い、さらに産学官による共同研究を実施することによって、地域科学技術の振興、産業の発展や新産業の創出を地域と共に目指すことを目的として組織された地域密着型シンクタンクです。CJRは産学連携において経験豊富かつ人脈豊富な専任教官と産学連携コーディネータ、各学部から選出された専門知識豊富な兼任教官、知財や研究契約に関して経験豊富な



総合文化祭での共同研究の紹介

して経験豊富な



弘前大学地域共同研究センター（CJR）

事務スタッフから組織されており、弘前大学研究者と産業界とのコラボレーションがより円滑に進められるよう、次の事業について積極的に活動支援を行います。

- 民間機関等との共同研究、受託研究の実施と推進
- 民間機関等との学術交流、情報交換の促進
- 民間機関等の技術者への技術教育、技術研修の実施
- 民間機関等からの科学技術相談への対応
- 学内外、他大学との共同研究の実施
- 学生への応用教育と研究指導の実施

大学発のベンチャーを創出

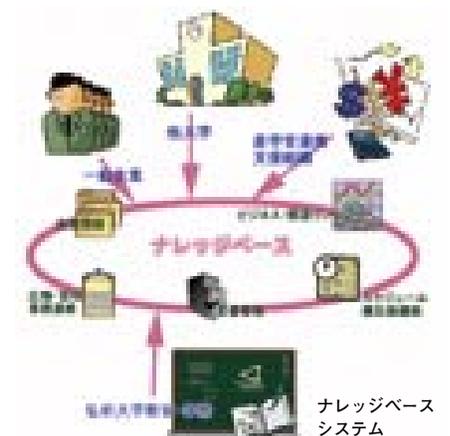
CJRはより地域に密着した活動を行い、「地域産業界の皆様のニーズ」にお応えするために、弘前と八戸、東京等を結び弘前大学サテライト・ネットワークを活動拠点とし、地域企業の訪問や各種展示会等の参加を重ねております。その成果として、共同研究件数が平成14年度の46件、平成15年度の74件と着実に増加し、大学発ベンチャーとして4社を創出するに至っております。事業化成功例としては、医学部保健学科との産学共同研究からスタートし、医工連携によるスピナウト型ベンチャーとして新事業を展開している株式会社ダイレクトコミュニケーションズ様があります。株式会社ダイレクトコミュニケーションズ様 (<http://www.webdcom.net>) は医療用画像処理システム研究開発企業を主たる事業内容としており、共同研究により実用化に至った製品として病理用デジタル画像貼り合わせ装置や遠隔病理診断支援システム等が新聞・雑誌等でも広く紹介さ

れ、今後の発展が強く期待されます。この他にも各学部にて行われている共同研究からは、特許をはじめとする数多くの知財が創出されており、知財立国を目指す我が国の原動力になるとともに地域における新産業創出につながると考えられます。

ナレッジベースシステムを構築

CJRでは、大学・研究会・企業などに所属されている方を対象に、ご使用のパソコンの機種や環境によらず、インターネット上で登録者同士のコミュニケーションを取ることができ、知識・情報の共有を考えたシステムであるナレッジベースシステムを構築しています。ナレッジベースシステムに登録している研究者同士の情報交換も容易になり、研究・交流のお役に立つものと考えております。ナレッジベースシステムの主な機能としては、◆研究者同士の情報交換（電子会議室・掲示板・回覧板・グループウェア等）◆スケジュール・備忘録◆検索機能◆文書管理等があります。また、ナレッジベースシステムに登録していただくと、「弘前大学産学連携データベース」をご覧いただけます。興味のある方は、CJRのホームページをご覧ください。

CJRは地域産業の活性化にお役に立てるようこれからも努力いたしますので、ぜひご利用ください。



●弘前大学地域共同研究センター
TEL : 0172-39-3176 FAX : 0172-36-2105
E-Mail : cjr@hirosaki-u.ac.jp
<http://www1.cjr.hirosaki-u.ac.jp/>

弘前大学教育学部附属中学校が生まれ変わりました。

教育学部附属中学校は昭和40年に校舎等が整備されて以来すでに39年が経過し、21世紀に向けた新たな教育環境の整備のために大規模な改修を実施しました。改修にあたっては、特色ある教育・学校づくりに対応できるよう、多様な教育内容と方法が実践できる施設という観点から設計コンセプトをつくりました。また、学校は災害時における避難場所になることから、十分な耐震性能を確保するため、新たに制震装置を取付け建物の揺れを抑え耐震性能を高めています。施設の快適性や生徒の安全性を高め、学習環境にふさわしい学舎として、生まれ変わりました。



企業171社、学生約450人が参加。合同企業説明会を開催

2月13日に弘前大学としては初めて、人文学部、教育学部、理工学部及び農学生命科学部がそれぞれの学部主催による合同企業説明会を開催しました。

この企画は、昨今の厳しい就職状況を受けて、昨年度理工学部が初めて実施したことになり、今年度は人文学部、教育学部及び農学生命科学部でも実施したものです。学生と企業の出会いの場を提供することで、学生の就職意欲の高揚を図ることを目的としています。



各学部とも昨年度理工学部で取り入れた、ブース形式を採用し、学生が興味のある企業を自由に選択できるものとなりました。当日は、4学部合計で製造業、販売業、マスコミなど県内外の171社の企業が参加し、約450名の学生が説明を受けました。

「ジャマイカ・日本芸術祭」開催。本学から5名参加。

ボブスレーとサッカーから連想される国は、と問われたらどう答えるでしょうか。これに、ブルー・マウンテンとレゲエが加わればもうおわかりと思います。カリブ海に浮かぶ島国、ジャマイカです。ジャマイカでもっとも有名な日本の大学はおそらく旧帝大でもなく私立の有名校でもありません。私たちの弘前大学こそがこの秋田県ほどの面積の国で最も知名度が高いのです。

弘前大学は国際協力事業団（JICA）とともに、1998年から5ヶ年の計画で「ジャマイカ国南部地域保健強化プロジェクト」を推進してきました。これが縁となり、現在では医学部とジャマイカの西インド大学が学部間協定を結ぶまでに至りました。

こうして培われた人的交流をきっかけとし、在ジャマイカ日本大使館とジャマイカのJICA同窓会の主催、国際交流基金と学術国際振興基金の助成により、2月12日、



13日の二日間にわたりジャマイカの首都キングストンにあるエドナ・マンレー芸術学院において、弘前大学の教員4名と大学院生1名によるジャマイカ・日本芸術祭が開催されました。メンバーは浅野清教育学部教授、今田匡彦教育学部助教授、羽瀧一代人文学部助教授、伯田桂子教育学研究科大学院生そして芳野明教育学部助教授です。日本美術、日本の音楽そして日本舞踊に関するレクチャーと同会場となった同学院の教員・学生も参加したミニ・コンサートで構成されたこの芸術祭は、各イベントともほぼ会場は満員となり、好評のうちに終了することができました。

カーリング日本一。人文学部の目黒萌絵選手。

日本カーリング選手権で全国制覇を果たした「青森県女子チーム」。チームの一員として活躍した弘前大学人文学部1年、目黒萌絵選手の喜びの談話です。

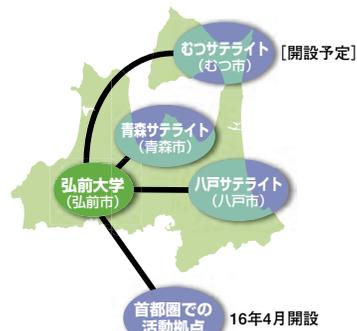
「2月23日から29日の間に行われた日本カーリング選手権、並びに3月8日から10日の間に行われたトリノ五輪に向けての候補選手権選考会で私たちフォルティウス（青森県女子）は優勝することができました。トリノ五輪へは世界で10カ国しか参加できません。日本がトリノ五輪の出場権を獲得できるかどうかは、これから五輪まで2年間に、世界選手権で実績を残さなければいけません。私たちは今年11月に韓国で行われるアジア・オセアニア予選に日本代表として出場します。その大会で2位以内に入れば世界選手権大会に出場する権利をもらえるので、次はアジア・オセアニア予選に焦点を当てて頑張っていこうと思っています」



青森県女子チーム（左から3人目が目黒萌絵選手）

新たなサテライトネットワーク。東京事務所を開設。

弘前大学では、16年4月から東京事務所を開設しました。首都圏での産学官連携、広報活動、就職活動支援等の新たな拠点としてサテライトネットワークを広げていきます。



- ◎弘前大学東京事務所
東京都中央区八重洲二丁目2番一号 住友生命八重洲ビル5階
青森県東京ビジネスプラザ内
- ◎弘前大学東京事務所分室
東京都江戸川区船堀3-5-24 朝日信用金庫6階
コラボ産学官プラザ in TOKYO内

平成16年度入学試験 合格発表。

平成16年度入学試験は、一般選抜前期日程を2月25、26日、後期日程を3月12日に実施しました。

今年度からは合格者の番号を弘前大学ホームページ、インターネットに接続できる携帯電話からも見るできるようになりました。



●平成16年度入学試験・志願倍率

学部	合格者数	倍率(前期)	倍率(後期)	青森県合格者(%)
人文学部	327	2.7	9.9	162(49.5)
教育学部	190	3.8	16.2	93(48.9)
医学部	241	3.5	7.4	67(27.8)
理工学部	279	2.1	5.1	121(43.4)
農学生命科学部	167	2.7	7.8	62(37.1)

(推薦入学等の特別選抜を除きます)

大正浪漫を伝える外国人教師館が 文京町キャンパスへ移転。

旧制官立弘前高等学校外国人教師館が、弘前大学文京町キャンパス内へ解体移転し、復元されました。この建物は、大正14年に官立弘前高等学校の外国人教師のために建てられ、その後近年まで弘前大学職員宿舎として利用されていました。しかし、青森県の都市計画による道路拡張工事のために取り壊される予定でしたが、学内外の方々から弘前市内でも希有な大正時代の財産を保存すべきとの声が高まり、このたび文京町キャンパスへ移築される運びとなりました。4月2日には、盛大に記念式典が開催され多数の関係者が移築の完成を祝いました。教師館の内部は、旧制官立弘前高等学校に関する資料を展示し、一般に公開される予定です。



旅立ちのとき。 平成15年度弘前大学卒業式。



平成15年度弘前大学卒業式は、3月23日午前10時から弘前市民会館において厳かに行われました。始めに、遠藤学長から学位記、卒業証書並びに修了証書が、各学部及び医療技術短期大学のそれぞれの代表の学生に手渡されました。引き続き学長告辞、弘前大学学生歌の演奏が行われ、最後に「ほたるの光」を出席者全員で斉唱し、卒業式典を滞りなく終えました。また、大学院修了式は、同日午後1時から創立50

周年記念会館みちのくホールで、教育学部附属学校の卒業式は、小学校は、3月19日、中学校が3月12日、養護学校が3月17日、幼稚園が3月15日に各学校園においてそれぞれ執り行われました。

【卒業生から一言】

- 毛利素子 [人文学部 社会システム課程]
4月からの就職のことで頭がいっぱいです。後輩のみなさんは学生生活でしかできないことをがんばってください。
- 平岡 史 [教育学部 学校教育教員養成課程]
忙しかったけれども、すごく充実してました。
- 鳴海央子 [理工学部 地球環境学科]
みんなとたくさん遊べてあつという間の4年間でした。卒業できてうれしい！！
- 棟方 理 [医学部 医学科]
6年間の大学生生活、友達とたくさん遊べたし、勉強もできたし、最高でした。
- 河村歩美 [農学生命科学部 生物生産科学科]
たのしい友人に恵まれ、充実した大学生活でした。
- 鈴木七奈 [医療技術短期大学部 専攻科助産学特別専攻]
18人でつらい1年間と一緒に頑張ってきた、とても大きな財産になりました。

国立大学法人弘前大学が始動。 法人化記念式典を開催。

16年4月1日から、国立大学法人弘前大学が始動しました。4月1日には、初の役員会、教育研究評議会、経営協議会、学長選考会議が開催され、中期目標・中期計画、学内諸規則等の事案を審議し、承認されました。翌4月2日には記念式典が開催され、学内関係者、県内自治体関係者、教育機関関係者、県内企業等多数の関係者が出席し、国

立大学法人としての弘前大学の門出を祝いました。遠藤学長からは、「弘前大学をとりまく状況は少子高齢化による大学入学志願者の減少、中央の大規模大学との大学間格差等厳しいが、国立大学法人弘前大学の発展に向けて弘前大学全教職員・学生の英知と努力が結集されることを望みたい」との挨拶がありました。

法人化「新生弘大一期生」を迎える。 平成16年度弘前大学入学式。

国立大学法人弘前大学としての初の入学式が4月6日午前10時から、弘前市民会館において執り行われました。遠藤学長の告辞では弘前市と弘前大学の歴史に触れ、「学園都市弘前において、学生として節度をもって輝いてほしい」との言葉があり、新入生は気持ちを新たにしていました。

また、当日は穏やかな晴天にも恵まれ、市民会館前では記念撮影をする父兄や、サークルへ勧誘する在学生などが集まり、いつもの賑やかな光景が見られました。

また、弘前大学大学院入学式は同日午後1時から創立50周年記念会館みちのくホールにおいて、教育学部附属学校園の入学式・入園式は、小学校・中学校・養護学

校が4月7日、幼稚園が12日に各学校園においてそれぞれ執り行われました。



【新入生の抱負】

入学生代表 医学部 阿部 学
「医学部に入ったので、とにかく自分の夢に向かって日々努力していきたいです。」

白神山地の世界一の研究拠点・ 情報センターを目指す 弘大「白神研究会」

4月からの国立大学法人化で、大学にも厳しい競争の時代がやってきました。各大学は生き残りをかけ、それぞれ自分たちの特色と個性に磨きをかけています。そんな中、弘前大学では昨年、地域的な特徴を生かして他大学との差別化を図ってこうという「白神研究会」が発足しました。研究対象は世界自然遺産でもある地元の白神山地。大学からわずか30分という地の利を生かし、国内外の白神山地研究に関する研究拠点、世界一の情報センターを目指していきたくて考えています。



牧田 肇(まさた・はじめ)

農学生命科学部附属生物共生教育研究センター教授〔専門分野〕植生地理学・環境科学〔担当授業科目〕地理学の基礎・山間地域文化研究など〔略歴〕1964年東北大学理学部地学科地理学卒業、78年弘前大学教養部助教授、86年同教授、97年同大農学生命科学部教授、00年～04年生物共生教育研究センター長。



佐々木 長市(ささき・ちやういち)

農学生命科学部教授〔専門分野〕農地工学〔担当授業科目〕農地工学、土壌物理学、応用推計学、地域環境科学概論など〔略歴〕1981年岩手大学農学部農業土木科卒業、83年同大大学院農学研究科農業土木専攻修了、83年宮城県農業短期大学助手、95年弘前大学農学部助教授、97年アジア工科大学(タイ王国)留学 00年弘前大学農学生命科学部教授

■「白神研究会」事務局

弘前大学農学生命科学部内
〒036-8561 弘前市文京町3
TEL (&FAX) 0172-39-3847
e-mail: chsasaki@cc.hirosaki-u.ac.jp

学内研究者の連携と組織化で、 弘大の名と成果を世界にアピール

「白神研究会」は、弘前大学農学生命科学部の牧田肇、檜垣大助、佐々木長市の3教授が呼びかけ人となって昨年5月に発足しました。白神山地の研究を基にさまざまな活動を展開していこうと考えています。事務局は大学内に置かれ、1年経った今では、学内から学部間垣根を越えて40人以上の教職員が参加しています。

同会会長の牧田教授によると、会の立ち上げのために最初に積極的に動き出したのは、檜垣教授と佐々木教授の二人だったそうです。佐々木教授の頭の中には、やはり大学の法人化ということが強くありました。

「激動期の大学にとって、特徴を示して、他の大学との差別化を図ることは重要です。特徴はさまざまな方向に求めることができますが、地域的な特徴は、もっとも他と競合するところが少なく、容易に達成できると考えられます。ならば、白神山地は、本学にとってもっとも利用しやすい地域的な特徴だと思ったのです」

会を作ったのは、組織的な動きにしていかなければ、「弘大が白神山地の研究をやってるぞ」という動きや顔がなかなか外に見えていかないのではないかと考えたからでした。

会長には、白神山地の研究を長く続けてきて、関連する著作や論文も多くある牧田教授が選ばれました。牧田教授は植生地理学が専門。白神山地の研究に関わるようになったのは1981年頃からで、当時、白神山地内に「青秋(せいしゅう)林道」の建設工事が計画され、県からそのアセスメントの調査を委嘱されたのがきっかけでした。以来、白神山地研究にのめりこみ、林

道工事の反対運動にも参加することになりました。

牧田教授は、会設立の意義と背景について次のように言います。

「白神山地は、知れば知るほど、たくさんの魅力を持った本当に素晴らしい研究対象です。ですから、本学でもこれまで、個々の先生がそれぞれ研究を進めていました。白神山地に興味を持っている研究者が広く連携すれば、さらに互いに刺激しあい、また新しい発想で研究を進めていくことができると思うんですね」

多面的な魅力を持つ ふところの深い山

白神山地は、青森県南西部と秋田県北西部にまたがる広大な山岳地帯の総称です。その総面積はおよそ13万ヘクタールといわれ、このうち原生的なブナ林が広がる中核部1万6971ヘクタールは1993年12月、①科学的にみても環境保全の面からみても貴重な自然環境である、②白神山地の生態系は生物社会のモニタリングに貴重な地域である、③イヌワシ、クマゲラなどの希少な鳥類の生息地である、などの理由でユネスコの「世界遺産(自然遺産)」に登録されました。

牧田教授は、白神山地の魅力について次のように語ります。

「自然が傷つけられずにかたまりで残っている。それが一番のすごいところ。日本では屋久島も世界自然遺産ですが、白神山地には、屋久島のような縄文杉や迫力いっぱい滝といったスペクタクルな部分はありません。息を呑むといった感じではなく、むしろ、深い森にいだかれ、浸って感じる山なんですね。山の中核地帯には人がいません。真ん中に入ると、だれにも会わずに何日も過ごせる。そういう山は日本には少

第2回シンポジウム「国絵図等の資料に見る江戸時代の白神山地」



ないんです」

調査の過程でガイドをお願いしたマタギたちからもたくさんの興味深い話を聞いたといいます。

「人と自然との関わり合い。衣食住、生活技術、歴史など、白神山地に関する研究テーマはたくさんある。それもまた、白神山地の大きな魅力なんです」

多面的な魅力を持つふところの深い山。その一端は、昨年、会が主催したシンポジウムの講演テーマを見てもうかがえます。「白神山地の自然と人 伝統と未来」(牧田教授)、「国絵図等の資料に見る江戸時代の白神山地」(人文学部長谷川成一教授)、「衛星画像を用いた白神山地の環境動態の解析」(理工学部飯倉善和教授)。多種類の学部を持つ総合大学ならではの多角的アプローチによる研究成果が紹介されました。

「シンポジウムに参加して、この方も白神山地の研究をやっておられたんだと初めて知った方もおりました。他の専門分野の先生のお話は、すごく刺激になり、新しい発想や視点のヒントを与えてくれて、参加者同士の間でも好評でした」

牧田教授は、あらためて会の存在意義を感じたといいます。

だれでも参加できる 白神山地の研究拠点に

白神研究会は昨年5月2日に発会式をおこない、その後、上記シンポジウムの開催のほかにも観察会やインストラクター養成講座を開催しました。

佐々木教授は、今年度はさらに内容を充実させていきたいと考えています。「観察会は春、夏、秋、冬の4回を予定。今年は大学の生涯教育講座にも、もっと講演会を組み込んでいきたいですし、本学ばかりでなく他大学からも講師をお呼びしたい

と考えています」

会では現在、活動記録や会誌の発行準備、ホームページの作成を進めていて、今年5月には第1号の研究会誌が発行される予定です。将来については、牧田教授は次のように展望を描いています。

「今は学内の研究者だけですが、市民の方でも学生でもどなたでも参加できる形にしたい。ここに声をかけてくれば、いろいろな情報が得られるという、国内外の白神山地の研究に関する研究拠点、情報センターを目指していきます。さらに、平成19年を目処に学会組織を目指す、研究費用の提出母体となる等も、目標に掲げています」

佐々木教授も、次のように考えています。「関心やテーマがあってもアプローチの手段を持っていなかった先生も多かったようなので、この会をうまく利用していただきたいですね。また、世界遺産の白神山地は、この地域の誇りです。地元の子供たちが、知識の一つとして、ブナはこういう特徴があるんだよとか、自然の大切さとか、そういうことを話せるようになる一助になれば、大学の地域貢献にもつながっていくんじゃないかと思っています」

会がスタートして丸1年。「参加したい」という学生や市民の声も多く寄せられ、また会の活動を通して、研究者と市民との交流もすごく増えてきています。牧田教授は、「なるほど、我々はこういうことをもっと勉強しなくちゃいけないんだな、と逆に教えられることも多々あった」そうです。大学はともすると、敷居が高いなどといわれがちですが、白神山地を通して、弘前大学と地域との結びつきはさらに深まっているようです。そして、白神研究会には、国内外の白神山地ファンから熱い視線と期待が寄せられています。

秋の観察会と冬の観察会



イベント告知板

【平成16年度 公開講座】

講座名	日時	会場	募集人数	要 料
弘前大学公開講座 「高・大連携高校生セミナー」	4/19~17(2) 10 18:00~17:30 (18時)	弘前大学 総合教育棟3 (高校生)	255名	2,500円
生活の豊かさを求めて (鶴田町会場)	8/28~8/4 13:00~17:00 (2回)	鶴田町	40名 (一般市民)	6,200円
生活の豊かさを求めて (木造町会場)	10月頃 13:00~17:00 (4回)	木造町	30名 (一般市民)	7,200円
転倒予防教室	8月 時間未定 (1回)	医学部 保健学科	30名 (心身障害者)	未定
医学講演会(予定)	8月下旬~9月上旬 18:00~19:10 (4回)	医学部 コミュニティ・ センター	60名 (一般市民)	未定
心と病気とメンタルヘルスに ついての理解を深める	8/1 13:00~15:00 (1回)	医学部 保健学科	30名 (一般市民)	未定
豊かな生活のための 自己防衛	8/26~8/9 18:30~20:30 (6回)	青森市 男女共同参画プラザ 研修室(予定)	60名 (一般市民)	6,200円
健康講座 ~元氣な毎日を送るため、 夏期について考えてみたい人が~	8/24~11/2 13:30~15:30 (6回)	八戸市 福祉公民館	50名 (一般市民)	6,200円
世界について考える	8/15~10/20 18:30~20:30 (6回)	三沢市 公会堂	40名 (一般市民)	7,200円

「弘前大学の就職活動を変えて」

月原 弘之

豊田通商株式会社
平成16年3月卒業
弘前大学人文学部情報マネジメント課程



就職支援サークルを作ったのは、去年の5月。4年の5月なんてほんときりぎりです。でも授業が一番少なかった4年が一番充実していました。きっかけは自分の就職活動。東京に出てみて、青森と東京の情報環境の差に驚いたのと、弘大生も素質では負けていないと思ったこと。環境の差だけで負けている今の現状に悔しさを覚えました。初めに、『内定の達人』の著者山近氏を弘前に呼んで、その差を少しでも埋めようと思いました。しかしある教官から拒否されたため、自分でサークルを立ち上げ、呼んでしまおうと。それが始まりでした。結局その時は200人近くの弘大生が集まり、その中から何人かがサークルに入り、最初は自分一人だったサークルが徐々に形になってきました。その後も仲間が増え続け、今の時点で20人を越えました。できることも広がり、生協の就職活動本の評価、仙台への就職活動ツアー、全国紙の新聞のスタッフ、メンバー個々の講演、去年の12月には再び山近氏をよび、400人規模の就職ガイダンスも開きました。やはり活動して思うのは、学生は自分らの視点から見たガイダンスなども欲しがっていること、みんなが火が付くきっかけがなかったただだったんだと感じました。今までに大学になかったサークルなのでやりがいがありました。学校側もかなり協力的で、お互い支え合って良くしようという雰囲気が感じられました。平成16年度は2年目を迎え、存続が問われる年。あとは後輩と先生方に想いを託します。自分はこのサークルはこれからの大学に必要な不可欠な存在であり、立ち上げたことに誇りをもっています。協力してくれた方々はもちろん、なにより自分に付いてきてくれたスタッフに感謝します。充実した一年でした。実におもしろい大学生活でした。

【弘前大学就職活動支援サークル「DYP (Discover Your Possibility)」創始者】



アラウンド・ザ・サークル

弘前大学陸上競技部

弘前大学陸上競技部は、50年を越える歴史がある伝統的なクラブです。競技面でも全国大会(国体、全日本IC)での入賞や地区大会(東北総体、東北IC)での優勝者を数多く排出しており、輝かしい成績を残しております。平成15年度も3年の坪田加奈子が国体の女子400mで5位入賞、全日本ICの女子400mHで8位入賞と活躍をしました。

また、部活動では、弘前地区で開催される各種陸上競技大会の審判や補助員としてのボランティア的活動も積極的に行っており、弘前大学としての社会的貢献の一役を担っております。



◆弘前大学後援会賛助会員募集のお知らせ◆

平成16年4月、弘前大学後援会(会長:石戸谷 忻一氏)が設立されました。弘前大学では、社会の求める優れた人材を育成するために、授業科目の見直し、学生センターの整備、学生課外活動部室の新築増設、運動場整備、学生就職支援センター設置など様々な方策を実施しています。

このほど設立された弘前大学後援会の支援を受け、さらに学生の課外活動支援、就職支援、国際交流、成績優秀者への報償金授与、研究・地域交流支援などの事業を行う予定です。

弘前大学後援会の主な会員は本学学生と保証人様と本学教職員となりますが、是非とも地域の皆様にもご加入いただき、ご支援をお願いしたいと思います。

ご加入希望の方は、下記宛にご連絡いただければ、入会案内を送付いたしますので、よろしく願いいたします。

担 当: 弘前大学総務部総務課
TEL: 0172-39-3006、3011
FAX: 0172-37-6594
E-mail: jm3011@cc.hirosaki-u.ac.jp

編集後記

「ひろだい」第3号をお届けします。「国立大学法人」という新たな組織に生まれ変わったわけですが、弘前大学はこれまで通りというよりはこれまで以上に一地域の皆様に親しんでいただきつつ、世界へと発信できるように努力を続けていきます。「ひろだい」はそうした地域の皆様との架け橋のひとつでありたいと考えています。

さて、今回は「弘前大学創立50周年記念会館」を表紙にとりあげてみました。平成11年に完成したキャンパス内でも新しい建物のひとつです。正面のデザインが特徴的ですがこれは昭和47年まで現在の図書館から学生会館の付近にあった旧制官立弘前高等学校講堂(写真参照)をイメージしたものです。「温故知新」という言葉を地味でいっているわけですが、伝統を残しつつ革新を続けていくという大学という組織に求められている姿の象徴のようなものとも考えることも出来ます。

50周年記念会館は一定の条件がそろえば一般の方々も使用することが出来ます。詳しくは<http://www.hirosaki-u.ac.jp/jimu/soumu/kaikan/index.html>をご覧ください。



ひろだい vol.3

2004年4月発行

表紙: 弘前大学創立50周年記念会館

弘前大学総務部総務課

「ひろだい」に関するご意見・ご感想をお聞かせください。
「ひろだい」はWebでもご覧いただけます。下記URLから「大学案内」へお進み下さい。

弘前大学

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
Tel.0172-39-3012 Fax.0172-37-6594
E-mail: jm3012@cc.hirosaki-u.ac.jp
<http://www.hirosaki-u.ac.jp>